

次の各問は、2 つの文章 前文(i)と後文(ii)で構成されている。それぞれの文章について、文の中の下線部の記述が次のどの組み合わせになっているか。解答欄の (a-d) を選べ。解答は、マークシートにマークせよ。

- 前文と後文の下線部 ともに正しいとき (a)
- 前文の下線部のみ が正しいとき (b)
- 後文の下線部のみ が正しいとき (c)
- 前文と後文ともに誤っているとき (d)

M76 (i) 小脳皮質は細胞構築の違いから、虫部-中間部-外側部という縦列構造を区分できる。  
(ii) 大脳皮質は細胞構築の違いから、Brodmann の 52 の領野に分けられる。

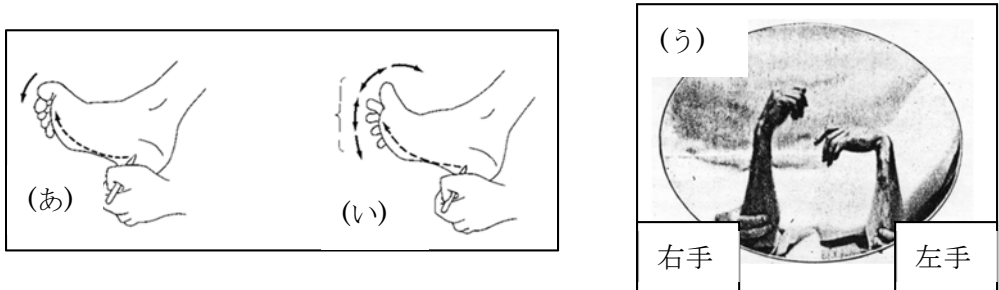
M77 (i) 小脳皮質から脳幹に投射する細胞は抑制性の細胞である。  
(ii) 大脳脊髄へ投射する細胞は興奮性の細胞である。

M78 (i) 小脳損傷で膝蓋腱反射は消失する。  
(ii) 錐体路損傷急性期では膝蓋腱反射は消失する。

M79 (i) 左側小脳皮質(手の領野)の損傷では、左側の手を随意的に動かすことが出来なくなる。  
(ii) 左側大脳皮質運動野(手の領野)の損傷では、左側の手を随意的に動かすことが出来なくなる。

M80 (i) 小脳損傷に伴う振戦 (tremor) は、力を入れずに手を膝の上に置いている状態で出現する。  
(ii) 錐体路の損傷では、不随意的な筋線維の攣縮が出現する。

M81 (i) 足底を踵から親指の方に向かって鉄筆のような硬いもので皮膚を刺激したときの足部の反応を下に模式的に図示した。乳幼児で見られるのは下図 (い) である。  
(ii) 右下の図 (う) は、左側小脳が損傷した患者でみられる左右手首の筋緊張の差異による状態を示している。



M82 (i) 視覚情報は大脳皮質後頭葉に入力するが、小脳には入力しない。  
(ii) 左後大脳動脈の梗塞による純粹失読は、目で見た文字の形態情報が左右両側の視覚野で受容されないために起こる。

M83 (i) 推尺異常は、指鼻試験で調べることが出来る。  
(ii) 錐体路障害のときの足間代 (クローヌス) は、足底をゆっくり背屈させると顕著に観察される。

M84 (i) 小脳は解剖学的に、第一裂(primary fissure)を境として前葉と後葉に区分される。  
(ii) 大脳は、中心溝を境として前頭葉と後頭葉に区分される。

M85 (i) 弛緩性麻痺は小脳の機能障害の一つである。  
(ii) 痙性麻痺は錐体路障害の一つである。